

2025年度研究生受入要件について
※以下に記載のない指導教員については、出願書類をご提出いただいた上で個別に受入の可否を確認します。

専攻	指導教員	研究室	専門分野	提供する研究テーマ	受け入れ要件	研究環境	出願書類以外の必要書類	注意事項
物理学専攻	田口 善弘	非線形物理学研究室	バイオインフォマティクス	miRNAによる遺伝子発現制御の生体生命情報学的な研究 エピゲネティクスによる遺伝子発現制御の生体生命情報学的な研究	・日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格or日本留学試験の日本語の合計点が200点以上 ・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること ・物理学と生命科学において学部卒程度の能力があること	研究指導(能力に応じて随時)、専用机・椅子の提供は保証できない(面積が手狭なため)	日本語能力を証明する書類、卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること)	大学院進学を目的とした受入(国費留学生を除く)は行わない 募集定員1名
精密工学専攻	梅田 和昇	知的計測システム研究室	ロボットビジョン 画像処理	距離画像処理・画像処理のロボティクス、ヒューマンインタフェースなどへの応用研究	【精密工学専攻共通】 ・日本語能力試験N2レベル(旧試験で2級相当)以上の合格、または日本語留学試験の日本語の合計点が200点以上 ・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること	【精密工学専攻共通】 週1回程度の研究指導、机・椅子・PCの提供、	【精密工学専攻共通】 日本語能力を証明する書類、卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること)、推薦状は大学での指導教授作成のものに限る。日本国内の保証人の身分を証明する書類、	【精密工学専攻共通】 ・大学院進学を目的とした受入(国費留学生 ・協定校からの留学生を除く)は行わない 募集定員 指導教員あたり1名
	大隅 久	ロボット工学研究室	ロボット工学	マニピュレータの機構と制御に関する研究				
	戸井 武司	音響システム研究室	快音設計 音質評価 音響数値シミュレーション	音響に関連した研究				
	中村 太郎	バイオメカトロニクス研究室	・バイオリボティクス/メカトロニクス ・スマートソフトアクチュエータ ・生物型ロボットの開発と医療/宇宙探査/工業分野への応用	・空気圧人工筋肉・機能性流体デバイスの開発とロボットマニピュレータの制御 ・生物型ロボットの開発と医療/宇宙探査/工業分野への応用				
	早川 健	マイクロ・ナノロボティクス研究室	・微細操作 ・微細操作 ・マイクロロボティクス ・微細加工	・マイクロ流体を用いた細胞操作・解析 ・マイクロロボットの作製				
	土肥 徹次	マイクロシステム研究室	MEMS, 医用マイクロセンサ	MEMS技術を利用した新しいセンサに関する研究(MRI用のMEMSコイル、マイクロ血圧センサ、マイクロ構造の組立など)				
	新妻 実保子	ヒューマン・システム研究室	人・ロボットコミュニケーション、空間知能化、ヒューマン・インタフェース	・動物行動学に基づく人とロボットのコミュニケーション ・触覚インタフェースに関する研究				
	鈴木 宏明	ナノバイオモデリング研究室	微細加工 バイオチップ 生物物理学	バイオマイクロシステム 細胞モデルの構築				
	米津 明生	材料強度学研究室	材料物性評価学、ナノ・マイクロメカニクス、非破壊評価、環境材料強度学	マルチスケール力学モデリングや非線形構造力学などの数値解析				
	石井 慶子	熱流体工学研究室	熱工学、流体工学	熱流体の可視化計測技術を用いた現象解明、物質輸送デバイスの開発				
	奥井 学	駆動デザイン研究室	メカトロニクス、機械制御、ソフトロボティクス	筋骨格ロボットの開発研究、新規アクチュエータの開発とその応用研究、ウェアラブルシステムの開発研究				

専攻	指導教員	研究室	専門分野	提供する研究テーマ	受け入れ要件	研究環境	出願書類以外の必要書類	注意事項
電気電子情報通信工学専攻	白井 宏	電磁波工学研究室	・電磁波工学 ・無線通信工学 ・アンテナ工学 ・電磁環境工学	・電磁波散乱・伝搬の解析 ・散乱体認識技術 ・電波の可視化 ・高周波測定技術	・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有し、電磁波についての基礎知識を有すること。 ・当研究室が提供する研究テーマに対して、積極的に取り組む意欲を有すること。 ・日常会話に不自由しない程度の日本語能力を有すること(例えば、日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格or日本留学試験の日本語の合計点が200点以上)。 ・研究指導を受けるにあたって不自由しない程度の日本語または英語の能力を有すること。	・研究室で行う学部生 ・大学院生を対象とするゼミへの参加。週1回程度の研究指導 ・打ち合わせ。 ・研究室へ所属している大学院生と同程度の研究室環境の利用(机、椅子。PCは学部生、大学院生と原則として共用)	1. 日本語(日本語検定等)、および英語(TOEIC,TOEFLの成績等)の能力を示す資料。 2. 以前在籍していた大学・大学院での研究で、本研究室で研究したいテーマに一番近い研究論文。 3. 以前在籍していた大学・大学院で、研究・教育指導等を受けたりして本人のことを良く知っている教員1名の氏名、所属、連絡先。Eメールは先方の所属機関のEメールアドレスを記入のこと。フリーメールアドレスは不可。 4. 研究生として在学する一年間の研究計画予定書1,000字程度。(提出が望ましいもの) 上記3.の教員本人からの推薦Eメール(日本語または英語)	・募集定員若干名。 ・受け入れは1年以内とし、複数年継続しての受け入れは原則認めない。 ・研究生受け入れと将来希望した場合の博士課程前期・後期課程への進学受け入れ内諾とは無関係であることを承知しておくこと。
	山村 清隆	情報数理工学研究室	非線形システム 回路シミュレーション	非線形システムの数値解析法に関する研究	・日本語能力試験2級またはN2レベル以上の合格or日本留学試験の日本語の合計点が200点以上 ・理工学系の学士号(またはそれと同等以上の学力)を有すること ・数値解析と数理計画法に関する基礎知識を有すること	週1回の研究指導、専用机・椅子の提供	日本語能力を証明する書類、卒業論文の概要(A4用紙4枚に日本語または英語でまとめること)	大学院進学を目的とした受入(国費留学生を除く)は行わない 募集定員1名
応用化学専攻	石井 洋一	有機金属化学研究室	有機遷移金属錯体の合成と反応性 多核遷移金属錯体の分子設計	シアナミド架橋多核錯体の分子設計 ピニリデン転位の一般化と利用				
	片山 建二	分光化学システム研究室	光化学 分光科学	・太陽電池 ・光触媒 ・光応答性液晶 ・顕微分光 ・時間分解分光	・英語もしくは日本語でのコミュニケーションがとれること。			
情報工学専攻	鈴木 寿	知能・情報制御研究室	サイバネティクス 人工知能(AI) ロボティクス(ロボット工学)	【画像処理】人体やロボットの動作のストローク生成 【信号処理】Pronyエネルギースペクトル密度分析ツールの開発 【信号処理】心音図分析／心電図分析 【信号処理】音響分析一般 【自然言語】日本語で会話するコンピューターの要素技術	・日本語能力試験1級を受験予定がある以上の日本語能力を有し、かつ、理工学系の学士以上の学力を有すること	研究室(学生実験室)における専用の机・椅子の利用、および、研究室行事(研究室ゼミを含む)への参加	日本語能力を証明する書類、卒業研究論文等、研究目的および研究計画について明確に述べた文書(図・表の利用可)	大学院進学を目的とした受け入れは行わない(国費留学生を除く)。
	牧野 光則	システム解析・可視化研究室	コンピュータグラフィックス(CG)、バーチャルリアリティ等(VR、AR、MR、XR)、可視化(VIS)	・CG、VR、AR、MR、XRIに関する技術動向の調査及び研究 ・CG、VR、AR、MR、XRの単数または複数による応用システム(例えば学習支援、訓練支援、能力拡張)の調査及び研究 ・可視化に関する技術動向の調査及び研究、並びに、可視化技術の応用システム ・その他、上記に関連が深い内容	日本語によるコミュニケーションのうち、Reading、Listening、Speakingについて研究進行に支障がない水準に達していること。 英語によるコミュニケーションのうち、Readingについて研究進行に支障がない水準に達していること。 日本語または英語によるコミュニケーションのうち、Writingについて研究進行に支障がない水準に達していること。 問題解決力、知識獲得力、組織的行動能力、創造力、自己実現力、多様性創発力について、中央大学段階別コンピテンシーの定義に沿って概ねレベル3以上であること(https://www.chuo-u.ac.jp/gp/competency_pro/competency/definition/)。 当研究室が提供する研究テーマに対して、積極的に取り組む意欲及び取り組むための基盤となる知識・能力(プログラミング、アルゴリズム、数学を含む)を幅広く有すること。	・学部生を対象とする研究室活動への参加(ゼミの参加・聴講、外部見学等)。但し、守秘義務が課せられているものは除く。 ・机、椅子、PC等は学部生と同等の環境の利用可。HMD等の実験機器は他の学生と共同使用。	出願者の研究計画に「当該テーマを当研究室で取り組むことが最善であると判断した根拠」を含めること。	・研究生としての活動は修士課程受験準備ではないことを予め承知すること。 ・研究室保有または使用しているソフトウェア、ハードウェアならびに各種データの持ち出しは原則として禁止する。 ・研究生は自主的に研究室で調査・研究に従事することが求められている。活動内容を記録する等、高い水準での自己実現力発揮を期待する。